

科目名	言語療法技術III			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科4年	後期	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
聴覚・音声言語障害の対象となる音についての基本的特性と表示・分析方法を知る。								
〔授業全体の内容の概要〕								
音声の音響理論を通じて、音声の生成・知覚の基本を理解する。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
国家対策につながるような実践的知識の集積								
回数	講義内容							
1	音とは、媒体の弾性と密度、音速							
2	音の要素、音の伝播特性（減衰、反射、共鳴、反共鳴）							
3	信号処理（標本化率、フィルター、フーリエ解析）							
4	音の表示・分析：波形、スペクトル、スペクトログラム							
5	音の基本要素（基本周波数・周期、振幅、位相）							
6	音の強さとデシベル表示（1）							
7	音の強さとデシベル表示（2）							
8	音声の音響理論、音源とフィルター							
9	管腔の共鳴・反共鳴、線形予測							
10	母音の音響特性							
11	子音の音響特性：時間							
12	子音の音響特性：周波数							
13	超分節的特性の音響学的記述							
14	音声知覚（1）							
15	音声知覚（2）							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
なし・配布プリント								
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								